

1 素材需給の動向

(1) 素材需要量

令和5年の素材需要量は2,366万9千 m^3 で、前年に比べ228万5千 m^3 (8.8%) 減少した。

これを需要部門別にみると、製材用は1,506万1千 m^3 で、前年に比べ130万2千 m^3 (8.0%)、合板等用は413万7千 m^3 で、同121万8千 m^3 (22.7%) それぞれ減少した。木材チップ用は447万1千 m^3 で前年に比べ23万5千 m^3 (5.5%) 増加した。

この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が63.6%、合板等用が17.5%、木材チップ用が18.9%となった(表1、図1)。

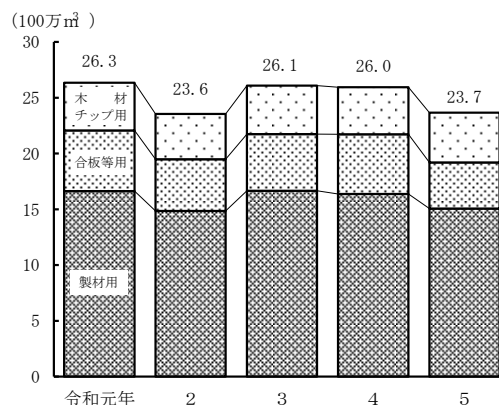
表1 需要部門別素材需要量

区 分	計	製材用	合板等用	単位：千 m^3	
				木 材	材 チップ用
令和4年	25,954	16,363	5,355	4,236	
5	23,669	15,061	4,137	4,471	
対前年比 (%)	91.2	92.0	77.3	105.5	
構 成 比 (%)					
令和4年	100.0	63.0	20.6	16.3	
5	100.0	63.6	17.5	18.9	

注：1 本調査においては、製材工場、合板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量をもって素材需要量としている。

2 数値及び構成比については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある(以下の図表において同じ。)

図1 素材需要量の推移



(2) 素材供給量

素材供給量のうち、国産材は2,064万7千 m^3 で、前年に比べ143万5千 m^3 (6.5%)、輸入材は302万2千 m^3 で、同85万 m^3 (22.0%) それぞれ減少した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は87.2%で、前年に比べ2.1ポイント増加した(表2、図2)。

図2 素材供給量及び国産材供給割合の推移

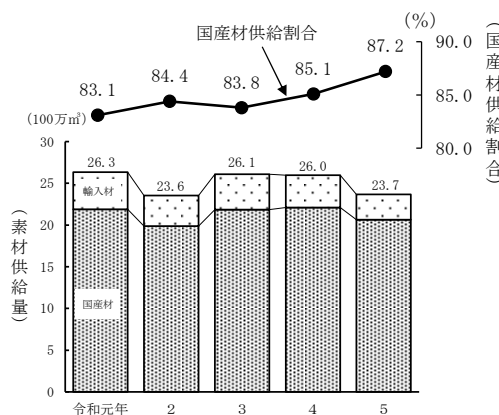


表2 需要部門別、材種別素材供給量

区 分	計	国 産 材				輸 入 材						単位：千 m^3
		小計	針葉樹	広葉樹		小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他	
令和4年												
計	25,954	22,082	20,386	1,696	3,872	54	3,229	182	303	104		
製 材 用	16,363	12,937	12,862	75	3,426	37	2,832	174	280	103		
合 板 等 用	5,355	4,912	4,892	20	443	17	394	8	23	1		
木 材 チップ用	4,236	4,233	2,632	1,601	3	-	3	-	0	-		
令和5年												
計	23,669	20,647	18,926	1,721	3,022	44	2,495	122	309	52		
製 材 用	15,061	12,271	12,185	86	2,790	x	2,282	122	305	x		
合 板 等 用	4,137	3,909	3,889	20	228	x	x	-	x	x		
木 材 チップ用	4,471	4,467	2,852	1,615	4	-	x	-	x	-		
対前年比 (%)												
計	91.2	93.5	92.8	101.5	78.0	81.5	77.3	67.0	102.0	50.0		
製 材 用	92.0	94.9	94.7	114.7	81.4	x	80.6	70.1	108.9	x		
合 板 等 用	77.3	79.6	79.5	100.0	51.5	x	x	-	x	x		
木 材 チップ用	105.5	105.5	108.4	100.9	133.3	nc	x	nc	x	nc		
構成比 (%)												
計	100.0	87.2	80.0	7.3	12.8	0.2	10.5	0.5	1.3	0.2		
製 材 用	100.0	81.5	80.9	0.6	18.5	x	15.2	0.8	2.0	x		
合 板 等 用	100.0	94.5	94.0	0.5	5.5	x	x	-	x	x		
木 材 チップ用	100.0	99.9	63.8	36.1	0.1	-	x	-	x	-		

注：本調査においては、素材需要量(製材工場、合板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量)をもって素材供給量としている(以下、表3及び表4の統計表まで同じ。)

ア 国産材供給量

国産材供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,892万6千m³で、前年に比べ146万m³（7.2%）減少した。

これを樹種別にみると、素材供給量の6割弱を占めるすぎは1,191万7千m³で、前年に比べ132万1千m³（10.0%）、えぞまつ・とどまつは124万1千m³で、同18万9千m³（13.2%）、あかまつ・くろまつは49万4千m³で、同6万5千m³（11.6%）、からまつは183万7千m³で、同9万5千m³（4.9%）それぞれ減少した。ひのきは318万m³で、同20万9千m³（7.0%）増加した。

また、広葉樹は172万1千m³で、前年に比べ2万5千m³（1.5%）増加した（表3、図3）。

図3 樹種別素材供給量の推移

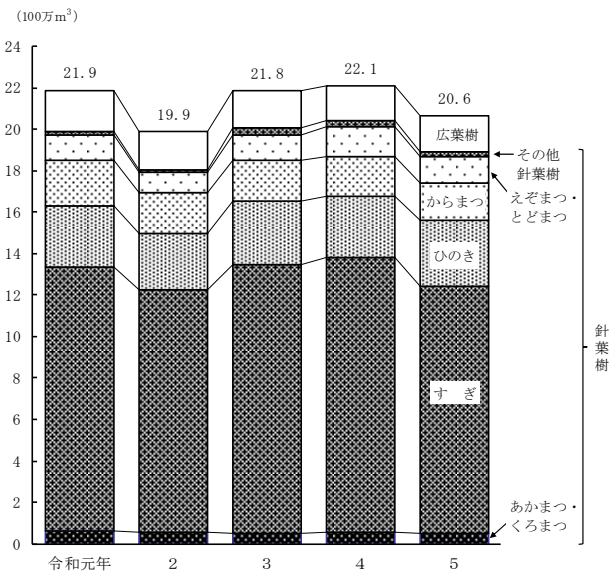


表3 需要部門別、樹種別素材供給量

単位: 千m ³									
区 分	計	針 葉 樹							広葉樹
		小 計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
令和4年									
計	22,082	20,386	559	13,238	2,971	1,932	1,430	256	1,696
製材用	12,937	12,862	85	8,900	2,100	947	801	29	75
合板等用	4,912	4,892	228	2,895	614	742	375	38	20
木材チップ [※] 用	4,233	2,632	246	1,443	257	243	254	189	1,601
令和5年									
計	20,647	18,926	494	11,917	3,180	1,837	1,241	257	1,721
製材用	12,271	12,185	74	8,120	2,320	824	801	46	86
合板等用	3,909	3,889	152	2,163	622	731	200	21	20
木材チップ [※] 用	4,467	2,852	268	1,634	238	282	240	190	1,615
対前年比(%)									
計	93.5	92.8	88.4	90.0	107.0	95.1	86.8	100.4	101.5
製材用	94.9	94.7	87.1	91.2	110.5	87.0	100.0	158.6	114.7
合板等用	79.6	79.5	66.7	74.7	101.3	98.5	53.3	55.3	100.0
木材チップ [※] 用	105.5	108.4	108.9	113.2	92.6	116.0	94.5	100.5	100.9
構成比(%)									
計	100.0	91.7	2.4	57.7	15.4	8.9	6.0	1.2	8.3
製材用	100.0	99.3	0.6	66.2	18.9	6.7	6.5	0.4	0.7
合板等用	100.0	99.5	3.9	55.3	15.9	18.7	5.1	0.5	0.5
木材チップ [※] 用	100.0	63.8	6.0	36.6	5.3	6.3	5.4	4.3	36.2

イ 輸入材供給量

輸入材供給量を産地材別にみると、輸入材の8割強を占める米材は249万5千 m^3 で、前年に比べ73万4千 m^3 （22.7%）、北洋材は12万2千 m^3 で、同6万 m^3 （33.0%）、南洋材は4万4千 m^3 で、同1万 m^3 （18.5%）それぞれ減少し、ニュージーランド材は30万9千 m^3 で、同6千 m^3 （2.0%）増加した（表4、図4）。

また、製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量は18万2千 m^3 で、前年に比べ7万6千 m^3 （29.5%）減少した（表5）。

図4 輸入材供給量の推移

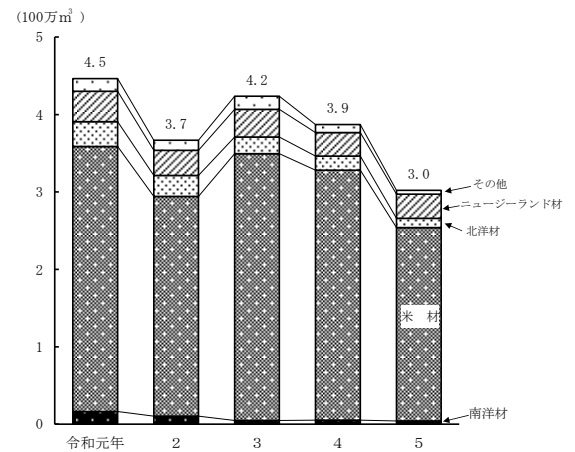


表4 輸入材供給量

単位：千 m^3						
区 分	計	南洋材	米 材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和4年	3,872	54	3,229	182	303	104
5	3,022	44	2,495	122	309	52
対前年比（%）	78.0	81.5	77.3	67.0	102.0	50.0
構 成 比（%）						
令和4年	100.0	1.4	83.4	4.7	7.8	2.7
5	100.0	1.5	82.6	4.0	10.2	1.7

表5 製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量

単位：千 m^3						
区 分	計	南洋材	米 材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和4年	258	4	36	138	10	70
5	182	6	31	106	11	28
対前年比（%）	70.5	150.0	86.1	76.8	110.0	40.0
構 成 比（%）						
令和4年	100.0	1.6	14.0	53.5	3.9	27.1
5	100.0	3.3	17.0	58.2	6.0	15.4

2 木材産業の動向

(1) 製材

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

製材工場数は3,749工場で、前年に比べ55工場（1.4%）減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、1,000.0kW以上の階層で増加し、75.0～300.0未満の階層では前年と同数、それ以外の階層では減少した。

製材用動力の総出力数は62万7,091kWで、前年に比べ7,652kW（1.2%）減少した。

1工場当たりの出力数は167.3kWで、前年に比べ0.4kW（0.2%）増加した（表6、図5）。

表6 製材工場数及び製材用動力の出力数（各年12月31日現在）

区 分	単位	令和4年	5	対前年比	構成比
				%	%
工場数計	工場	3,804	3,749	98.6	100.0
7.5～75.0kW未満	〃	2,183	2,131	97.6	56.8
75.0～300.0	〃	1,180	1,180	100.0	31.5
300.0kW以上	〃	441	438	99.3	11.7
うち1,000.0kW以上	〃	80	85	106.3	2.3
総出力数	kW	634,743	627,091	98.8	-
1工場当たり出力数	〃	166.9	167.3	100.2	-

イ 製材用素材消費量

製材用素材消費量は1,513万6千m³で、前年に比べ87万6千m³（5.5%）減少した。

1工場当たりの素材消費量は4,064m³で、前年に比べ145m³（3.4%）減少した（表7、図6）。

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

区 分	単位	令和4年	5	対前年比	構成比
				%	%
計	千m ³	16,012	15,136	94.5	100.0
7.5～75.0kW未満	〃	673	579	86.0	3.8
75.0～300.0	〃	2,906	2,707	93.2	17.9
300.0kW以上	〃	12,433	11,850	95.3	78.3
うち1,000.0kW以上	〃	7,656	5,989	78.2	39.6
1工場当たり消費量	m ³	4,209	4,064	96.6	-

図5 製材工場の出力階層別構成割合（令和5年）

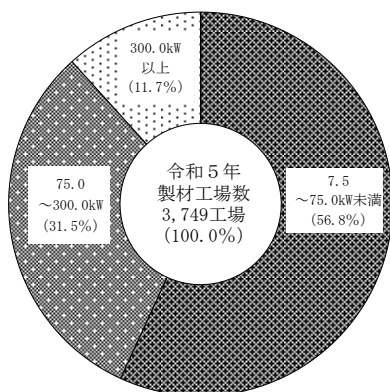
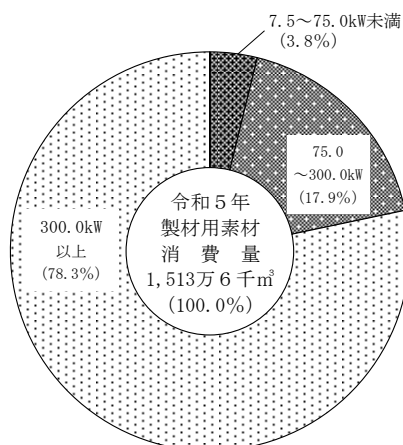


図6 製材用素材消費量の出力階層別構成割合（令和5年）



ウ 製材用素材入荷量

(ア) 製材用素材入荷量は、1,506 万 1 千 m^3 で、前年に比べ 130 万 2 千 m^3 (8.0%) 減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材の入荷量は 1,227 万 1 千 m^3 で、前年に比べ 66 万 6 千 m^3 (5.1%)、輸入材の入荷量は 279 万 m^3 で、同 63 万 6 千 m^3 (18.6%) 減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は 81.5% で、前年に比べ 2.4 ポイント上昇した（表 8、図 7）。

図 7 製材用素材入荷量及び
国産材割合の推移

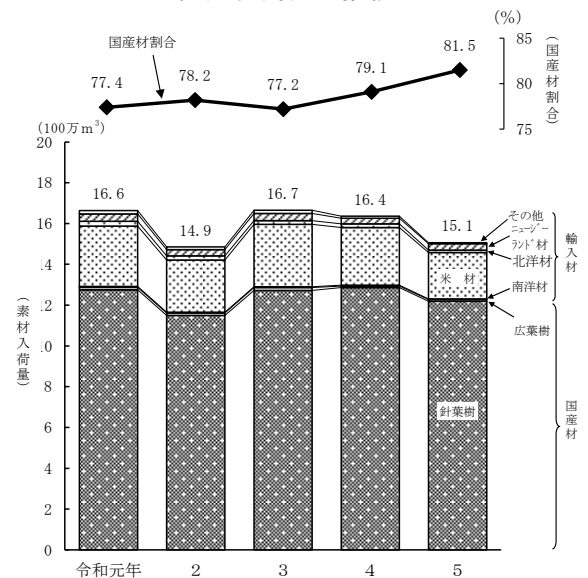


表 8 材種別製材用素材入荷量

単位：千 m^3

区 分	計	国 産 材			輸 入 材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和 4 年	16,363	12,937	12,862	75	3,426	37	2,832	174	280	103
5	15,061	12,271	12,185	86	2,790	x	2,282	122	305	x
対前年比 (%)	92.0	94.9	94.7	114.7	81.4	x	80.6	70.1	108.9	x
構 成 比 (%)										
令和 4 年	100.0	79.1	78.6	0.5	20.9	0.2	17.3	1.1	1.7	0.6
5	100.0	81.5	80.9	0.6	18.5	x	15.2	0.8	2.0	x

注：本調査においては、製材用素材入荷量は製材用の素材需要量（素材供給量）としているため一致する。

(イ) 素材の入荷があった製材工場は 3,722 工場で、前年に比べ 56 工場 (1.5%) 減少した。

これを入荷類型別にみると、国産材のみは 3,116 工場で、前年に比べ 62 工場 (2.0%)、増加し、国産材と輸入材は 511 工場で、同 49 工場 (8.7%)、輸入材のみは 95 工場で、同 69 工場 (42.1%) それぞれ減少した。

入荷量でみると、国産材のみは 1,113 万 3 千 m^3 で、前年に比べ 115 万 9 千 m^3 (9.4%)、輸入材のみは 124 万 6 千 m^3 で、同 48 万 2 千 m^3 (27.9%) それぞれ減少し、国産材と輸入材は 268 万 2 千 m^3 で、同 33 万 9 千 m^3 (14.5%) 増加した（表 9）。

表 9 製材用動力の入荷類型別製材工場数及び入荷量

区 分	計		国産材のみ		国産材と輸入材		輸入材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
令和 4 年	工場	千 m^3	工場	千 m^3	工場	千 m^3	工場	千 m^3
5	3,778	16,363	3,054	12,292	560	2,343	164	1,728
	3,722	15,061	3,116	11,133	511	2,682	95	1,246
対前年比 (%)	98.5	92.0	102.0	90.6	91.3	114.5	57.9	72.1
構 成 比 (%)								
令和 4 年	100.0	100.0	80.8	75.1	14.8	14.3	4.3	10.6
5	100.0	100.0	83.7	73.9	13.7	17.8	2.6	8.3

注：工場数は、製材用素材の入荷のあった工場数である。

エ 製材品出荷量

製材品出荷量は796万5千 m^3 で、前年に比べ63万5千 m^3 （7.4%）減少した。

これを用途別にみると、約8割を占める建築用材は648万4千 m^3 で、前年に比べ47万7千 m^3 （6.9%）、土木建設用材は32万 m^3 で、同5万5千 m^3 （14.7%）、木箱仕組板・こん包用材は92万9千 m^3 で、同10万1千 m^3 （9.8%）それぞれ減少し、家具建具用材は5万3千 m^3 で同3千 m^3 （6.0%）増加した。

また、人工乾燥材出荷量は400万5千 m^3 で、前年に比べ9万5千 m^3 （2.3%）減少した。

製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は50.3%で、前年に比べ2.6ポイント上昇した（表10、図8、図9）。

図8 用途別製材品出荷量の推移

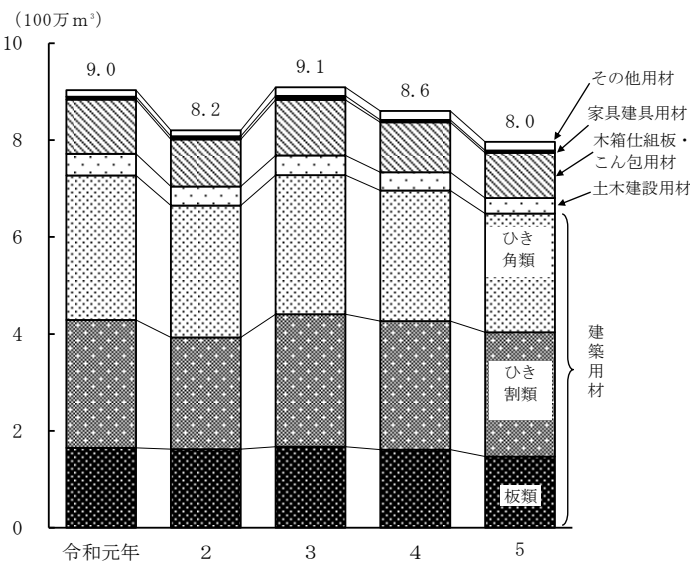


図9 人工乾燥材出荷量及び製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合の推移

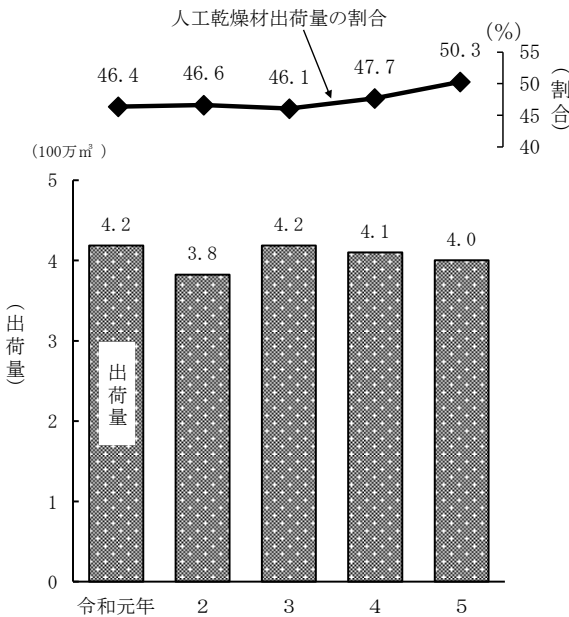


表10 用途別製材品出荷量

単位：千 m^3										
区 分	計	建 築 用 材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小 計	板 類	ひき割類	ひき角類				
令和4年	8,600	4,100	6,961	1,615	2,647	2,699	375	1,030	50	184
5	7,965	4,005	6,484	1,475	2,561	2,448	320	929	53	179
対前年比 (%)	92.6	97.7	93.1	91.3	96.8	90.7	85.3	90.2	106.0	97.3
構 成 比 (%)										
令和4年	100.0	47.7	80.9	18.8	30.8	31.4	4.4	12.0	0.6	2.1
5	100.0	50.3	81.4	18.5	32.2	30.7	4.0	11.7	0.7	2.2

(2) 合単板及びLVL

ア 合単板工場数

合単板工場数は164工場で、前年に比べ9工場（5.8%）増加した。

これを工場類型別にみると、「単板のみ」を生産している工場は前年に比べ7工場（35.0%）、「普通合板のみ」を生産している工場は同1工場（3.3%）、「普通合板と特殊合板」を生産している工場は同1工場（33.3%）それぞれ増加し、「特殊合板のみ」を生産している工場は前年と同数であった（表11）。

表11 工場類型別合単板工場数（各年12月31日現在）

単位：工場					
区 分	計	単 板 の み	普通合板のみ	普通合板と 特殊合板	特殊合板のみ
令和4年	155	20	30	3	102
5	164	27	31	4	102
対前年比（%）	105.8	135.0	103.3	133.3	100.0
構 成 比（%）					
令和4年	100.0	12.9	19.4	1.9	65.8
5	100.0	16.5	18.9	2.4	62.2

イ 単板製造用素材入荷量

単板製造用素材の入荷量は413万7千m³で、前年に比べ121万8千m³（22.7%）減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材は390万9千m³で、前年に比べ100万3千m³（20.4%）、輸入材は22万8千m³で同21万5千m³（48.5%）それぞれ減少した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は94.5%となり、前年に比べ2.8ポイント上昇した（表12、図10）。

図10 単板製造用素材入荷量及び国産材割合の推移

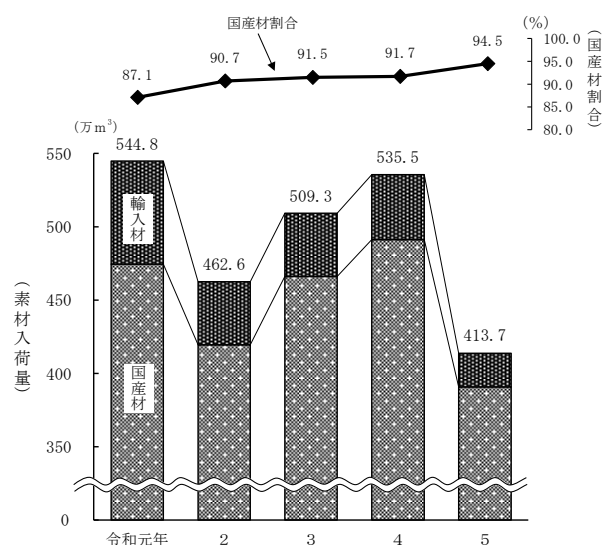


表12 材種別単板製造用素材入荷量

単位：千m ³											
区 分	計	国 産 材			輸 入 材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	米材	北洋材	ニュー ジール ランド材	その他
令和4年	5,355	4,912	4,892	20	443	360	17	394	8	23	1
5	4,137	3,909	3,889	20	228	185	x	x	-	x	x
対前年比（%）	77.3	79.6	79.5	100.0	51.5	51.4	x	x	-	x	x
構 成 比（%）											
令和4年	100.0	91.7	91.4	0.4	8.3	6.7	0.3	7.4	0.1	0.4	0.0
5	100.0	94.5	94.0	0.5	5.5	4.5	x	x	-	x	x

注： 本調査においては、単板製造用素材入荷量は合板等用（合板用及びLVL用）の素材需要量（素材供給量）と一致する。

ウ 単板消費量

単板消費量は 357 万 7 千 m^3 で、前年に比べ 40 万 2 千 m^3 (10.1%) 減少した。

これを用途別にみると、合板用は 322 万 m^3 で、前年に比べ 40 万 m^3 (11.0%)、L V L用は 35 万 7 千 m^3 で、同 2 千 m^3 (0.6%) それぞれ減少した (表 13)。

表 13 単板消費量

単位：千 m^3			
区 分	計	合板用	L V L用
令和 4 年	3,979	3,620	359
5	3,577	3,220	357
対前年比 (%)	89.9	89.0	99.4
構 成 比 (%)			
令和 4 年	100.0	91.0	9.0
5	100.0	90.0	10.0

エ 普通合板生産量

普通合板生産量は 253 万 2 千 m^3 で、前年に比べ 52 万 7 千 m^3 (17.2%) 減少した。

このうち、針葉樹合板生産量は 248 万 1 千 m^3 で、前年に比べ 43 万 8 千 m^3 (15.0%) 減少した。

また、厚さ別にみると、「6mm未満」は 2 万 9 千 m^3 で、前年に比べ 7 万 6 千 m^3 (72.4%)、「6～12mm」は 40 万 5 千 m^3 で、同 12 万 7 千 m^3 (23.9%)、「12～24mm」は 109 万 7 千 m^3 で、同 18 万 2 千 m^3 (14.2%)、「24mm以上」は 100 万 1 千 m^3 で、同 14 万 2 千 m^3 (12.4%) それぞれ減少した (表 14、図 11)。

図 11 普通合板生産量及び針葉樹合板割合の推移

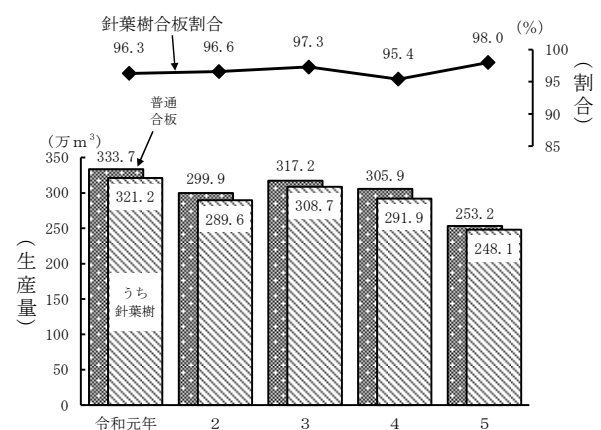


表 14 普通合板生産量

区 分	令和 4 年	5	対前年比	構成比
	千 m^3	千 m^3	%	%
普通合板生産量	3,059	2,532	82.8	100.0
6 mm 未 満	105	29	27.6	1.1
6 ～ 12	532	405	76.1	16.0
12 ～ 24	1,279	1,097	85.8	43.3
24 mm 以 上	1,143	1,001	87.6	39.5
うち針葉樹合板	2,919	2,481	85.0	98.0
うち構造用合板	2,580	2,228	86.4	88.0

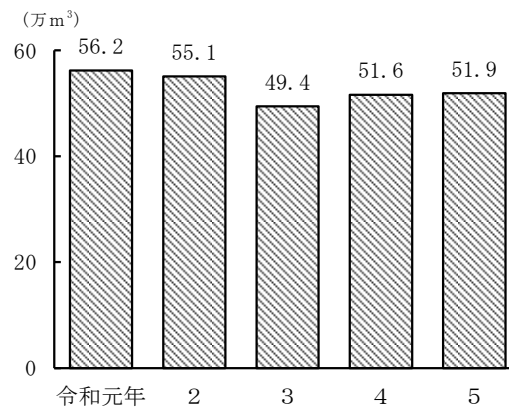
オ 特殊合板生産量

特殊合板生産量は 51 万 9 千 m^3 で、前年に比べ 3 千 m^3 (0.6%) 増加した (表 15、図 12)。

表 15 特殊合板生産量

区 分	令和 4 年	5	対前年比
	千 m^3	千 m^3	%
特殊合板生産量	516	519	100.6

図 12 特殊合板生産量の推移



カ L V L 工場数

L V L 工場数は 15 工場で、前年に比べ 3 工場 (25.0%) 増加した (表 16)。

表 16 L V L 工場数 (各年 12 月 31 日現在)

区 分	令和 4 年	5	対前年比
	工場	工場	%
L V L 工場	12	15	125.0

キ L V L 生産量

L V L 生産量は 22 万 8 千 m^3 で、前年に比べ 2 万 2 千 m^3 (8.8%) 減少した。

これを用途別にみると、構造用が 14 万 4 千 m^3 で、前年に比べ 1 万 1 千 m^3 (7.1%)、その他が 8 万 4 千 m^3 で、同 1 万 1 千 m^3 (11.6%) それぞれ減少した (表 17)。

表 17 L V L 生産量

単位: 千 m^3			
区 分	計	構造用	その他
令和 4 年	250	155	95
5	228	144	84
対前年比 (%)	91.2	92.9	88.4
構 成 比 (%)			
令和 4 年	100.0	62.0	38.0
5	100.0	63.2	36.8

(3) 木材チップ

ア 木材チップ工場数

木材チップ工場数は1,119工場で、前年に比べ9工場（0.8%）増加した。

これを専門・兼営区分別にみると、「木材チップ専門工場」は327工場で、前年に比べ7工場（2.2%）、「製材又は合単板工場等との兼営工場」は792工場で、同2工場（0.3%）それぞれ増加した（表18）。

表18 専門・兼営区分別木材チップ工場数
(各年12月31日現在)

単位：工場			
区 分	計	木材チップ 専門工場	製材又は合単板工場等 との兼営工場
令和4年	1,110	320	790
5	1,119	327	792
対前年比（%）	100.8	102.2	100.3
構 成 比（%）			
令和4年	100.0	28.8	71.2
5	100.0	29.2	70.8

イ 木材チップ用素材入荷量

木材チップ用素材入荷量は447万1千 m^3 で、前年に比べ23万5千 m^3 （5.5%）増加した。

これを国産材、輸入材別にみると、大部分を占める国産材は446万7千 m^3 で、前年に比べ23万4千 m^3 （5.5%）増加した（表19、図13）。

図13 木材チップ用素材入荷量の推移

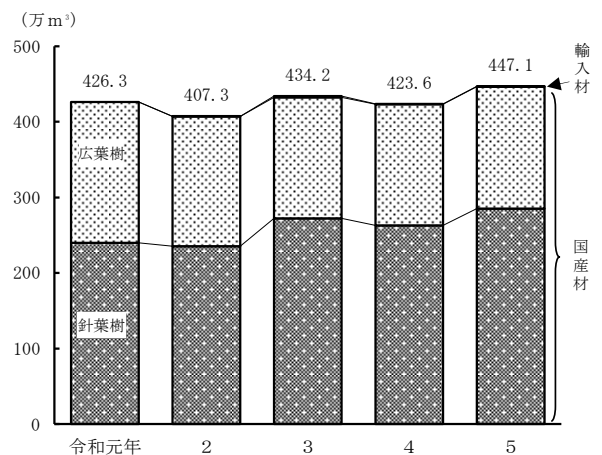


表19 材種別木材チップ用素材入荷量

単位：千 m^3										
区 分	計	国 産 材			輸 入 材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニューシ- ランド材	その他
令和4年	4,236	4,233	2,632	1,601	3	-	3	-	0	-
5	4,471	4,467	2,852	1,615	4	-	x	-	x	-
対前年比（%）	105.5	105.5	108.4	100.9	133.3	nc	x	nc	x	nc
構 成 比（%）										
令和4年	100.0	99.9	62.1	37.8	0.1	-	0.1	-	0.0	-
5	100.0	99.9	63.8	36.1	0.1	-	x	-	x	-

注：本調査においては、木材チップ製造用素材入荷量は木材チップ用の素材需要量（素材供給量）と一致する。

ウ 木材チップ生産量

木材チップ生産量は526万tで、前年に比べ1万8千t（0.3%）減少した。

これを原材料別にみると、素材（原木）は241万2千tで、前年に比べ3万4千t（1.4%）、解体材・廃材は72万2千tで、同2万4千t（3.4%）それぞれ増加し、工場残材は208万1千tで、同7万5千t（3.5%）、林地残材は4万5千tで、同1千t（2.2%）それぞれ減少した。

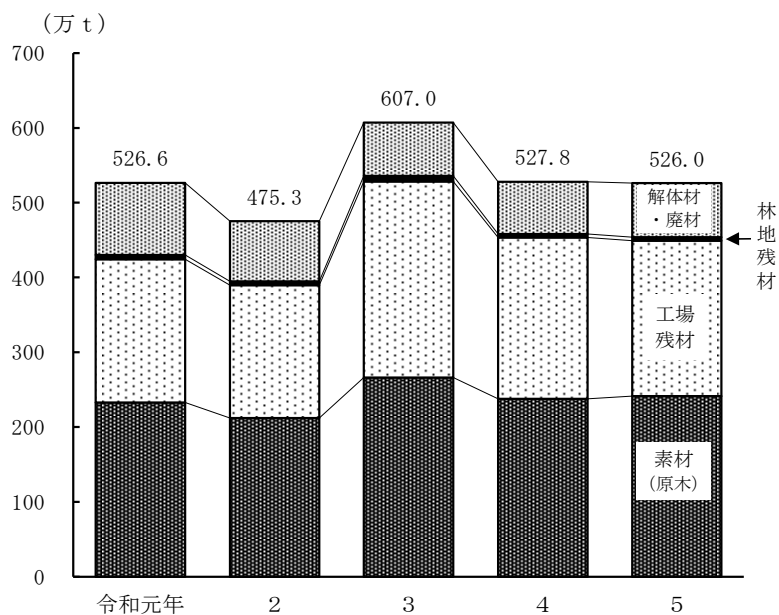
また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は354万5千tで、前年に比べ1万9千t（0.5%）増加し、広葉樹は99万3千tで、同6万1千t（5.8%）減少した（表20、図14）。

表 20 木材チップ生産量

区 分	令和4年	5	対前年比	構成比
	千 t	千 t	%	%
木材チップ生産量	5,278	5,260	99.7	100.0
原材料別				
素材（原木）	2,378	2,412	101.4	45.9
工場残材	2,156	2,081	96.5	39.6
林地残材	46	45	97.8	0.9
解体材・廃材	698	722	103.4	13.7
針葉樹・広葉樹別				
針 葉 樹	3,526	3,545	100.5	—
広 葉 樹	1,054	993	94.2	—

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図 14 原材料別木材チップ生産量の推移



(4) 集成材及びＣＬＴ

ア 集成材及びＣＬＴ工場数

集成材工場数は143工場で、前年に比べ3工場（2.1％）増加した。

ＣＬＴ工場数は10工場で、前年に比べ1工場（11.1％）増加した（表21）。

表21 集成材及びＣＬＴ工場数
（各年12月31日現在）

単位：工場		
区 分	集成材工場	ＣＬＴ工場
令和4年	140	9
5	143	10
対前年比（％）	102.1	111.1

イ ラミナ消費量

ラミナ消費量は194万2千 m^3 で、前年に比べ58万7千 m^3 （23.2％）減少した。

これを用途別にみると、集成材用は191万4千 m^3 で、前年に比べ58万9千 m^3 （23.5％）減少し、ＣＬＴ用は2万8千 m^3 で、同2千 m^3 （7.7％）増加した（表22）。

表22 ラミナ消費量

単位：千 m^3			
区 分	計	集成材用	ＣＬＴ用
令和4年	2,529	2,503	26
5	1,942	1,914	28
対前年比（％）	76.8	76.5	107.7
構 成 比（％）			
令和4年	100.0	99.0	1.0
5	100.0	98.6	1.4

ウ 集成材生産量

集成材生産量は167万5千 m^3 で、前年に比べ1万6千 m^3 （1.0％）増加した。

これを用途別にみると、構造用が159万 m^3 で、前年に比べ1万3千 m^3 （0.8％）増加した（表23）。

表23 集成材生産量

単位：千 m^3						
区 分	計	構造用				その他
		小計	大断面	中断面	小断面	
令和4年	1,659	1,577	12	637	928	82
5	1,675	1,590	33	642	915	85
対前年比（％）	101.0	100.8	275.0	100.8	98.6	103.7
構 成 比（％）						
令和4年	100.0	95.1	0.7	38.4	55.9	4.9
5	100.0	94.9	2.0	38.3	54.6	5.1

エ C L T生産量

C L T生産量は1万8千 m^3 で、前年に比べ3千 m^3 （20.0％）増加した。

これを用途別にみると、構造用が1万6千 m^3 で、前年に比べ2千 m^3 （14.3％）増加した。
（表24）。

表 24 C L T生産量

単位：千 m^3			
区 分	計	構造用	その他
令和4年	15	14	1
5	18	16	2
対前年比（％）	120.0	114.3	200.0
構 成 比（％）			
令和4年	100.0	93.3	6.7
5	100.0	88.9	11.1